

農福連携に係る農業版ジョブコーチ育成研修会開催

公社

(公財)道央農業振興公社は11日、同公社研修室で道央地域農業版ジョブコーチ育成研修会を開催しました。研修会では、合同会社竹内農園(北広島市)の代表である竹内巧さん他3名が講師を務め、農業の基礎的な知識、障がい者の特性などに関する基本的な知識の習得を目的とし、農業関係者や福祉関係者等24名が出席しました。

講師の竹内巧さんは「農業分野における働き手不足の問題は深刻であり、農福連携の取組みは農業者においても作業の効率化に繋がります。農業者と障がい者の両者が気持ちよく仕事ができるのが農福連携。関係団体と情報共有しながら、この取り組みをアピールしていきたいです。」と話しました。

農福連携において、農業者は障がい者ができる作業を委託することで他の業務に従事できるなど効率化が図られます。福祉面においては障がい者が明るい空の下で体を動かし作業をすることで、健康増進や自立心の向上を促す効果があるとされています。

道央地域4市(江別・北広島・恵庭・千歳)では、農福連携について、研修会などを通じて広く知ってもらうことが重要であり、今後も継続した取組みを行っていく予定です。

(9月11日)



児童へ伝える食と農の大切さ



当JA青年部江別ブロック・渉外活動実行委員会(有野翔大ブロック長・三角将広実行委員長)の8名は9月15日、江別第一小学校の5年生を対象に食育事業を行いました。

食育事業は例年、児童達が青年部員より指導を受けながら、播種作業から収穫作業までを実際に行い、自分達が育てた作物を調理し、試食していましたが、今回の食育事業は、青年部による出前授業という形をとり、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取り組んだ上で行いました。

児童達は、ブロッコリーやスイートコーンを教材とした青年部員自らが作成したクイズに取り組み、時折悩むクイズに対して周りの友達と相談しあいながら答えを導き出していました。

今回参加した77人の児童には、部員が当日の朝収穫したブロッコリーとスイートコーンがプレゼントされ、児童達の顔には笑顔が溢れました。

当JA青年部江別副ブロック長であり、渉外活動実行委員長を務める三角将広さんは、「今日配ったブロッコリーやスイートコーンを家庭で調理し、今回学んだことを家族と共有してくれたら嬉しい。」と話しました。

食育事業は児童達に農業や地元の野菜にもっと興味をもってもらうことを狙いとしており、当JA青年部江別ブロックでは、食の大切さを感じてもらったり、農業を身近に感じてもらうと食育事業に力を入れています。

(9月15日)



消防訓練実施



9月4日、恵庭市にある当JA本所・本店、恵庭・北広島営農センター(恵庭)、恵庭資材店の3施設で、正しい119番の通報と災害時の適切な避難行動を身につけるため、合同消防訓練を行いました。

同訓練は消防法に基づき、恵庭市消防署島松出張所、消防設備点検業者の(株)ユニ商会の協力のもと毎年行われています。

本所1階給湯室からの火災を想定し、当職員の「火事だー!」の掛け声の後、各役割分担に基づき訓練が実施され、火災の発見から通報、避難誘導までスムーズに行うことができました。

当JAは今後も万が一に備え、防災意識の向上を図ってまいります。(9月4日)

